

それぞれが感染予防の徹底を

- 1 手洗い、咳エチケット
- 2 避けよう密閉・密集・密接
- 3 マスクは正しく着用する
- 4 不要不急な外出は避ける
- 5 人が集まる場所は避ける

◀ 関連記事は 4 ページに掲載



自粛続きで健康面にも疲れが

サロンや健康教室に行けない日々だからこそ自宅運動で体力や運動機能の維持を。小児科オンラインの相談時間も延長し、日祝の対応もスタート。

◀ 関連記事は 4 ページに掲載



事業者向けの支援策など

- ・持続化交付金（経済産業省）
- ・デリバリー・テイクアウト支援
- ・緊急小口資金・総合支援資金（錦江町社会福祉協議会）
- ・無利子、無担保での融資など

各支援は町ホームページ掲載



引き続き利用中止の公共施設

神川大滝公園などの観光関連施設とキャンプ場やバンガローなど宿泊を伴う施設は利用中止。

※その他の施設を利用する場合は感染予防を徹底してください。

◀ 関連記事は 4 ページに掲載



中止や延期のおもな行事

照葉樹の森サイクルジャンボリー
かごしま国体デモスポーツ（真向法体操）

複合検診、狂犬病予防注射
※町HP等で随時お知らせ

◀ 関連記事は 4 ページに掲載



子育て世帯にはさらに1万円

学校の休校措置などによる影響が大きい子育て世帯には、さらに1万円上乗せする臨時特別給付金が交付されます。申請は不要、6月頃支給予定。

◀ 関連記事は 12 ページ掲載



感染予防

毎日のようにテレビや新聞等で報じられるコロナ関連のニュース。必要以上に不安を抱えないために正しい情報を知ることが大切です。経験したことのないこの事態を乗り越えるために予防の徹底を。

健康維持

感染拡大を防ぐために不要不急の外出を控え、人に会うことも制限される状況。外出する機会も極端に減っていることから、体力や運動機能の低下、精神的不安といった健康被害も叫ばれています。

各種支援

人が集まることで発生するクラスターと呼ばれる感染集団を防ぐために、休業措置をとる飲食店など。それらの支援策として持続化交付金の支給や無利子貸付といった経済支援が打ち出されています。

施設利用

感染防止のため、5月6日まで公共施設も休館、休業の措置を取っていましたが、7日から手指消毒やマスク着用、室内換気などの感染予防を行いながら一部開放します。ホームページで随時更新中。

中止 / 延期

イベントや行事の延期、中止が続いています。健診や予防注射等は時期を調整しながら延期。健康教室や相談は、個別や時間を分ける、希望者のみ対応するなど接触を避けて実施します。

定額給付金

国の緊急経済対策として国民全員に1人あたり10万円が支給されます。錦江町でも4月30日から順次申請書を発送。申請期限は8月11日頃までです。

◀ 関連記事は 5 ページに掲載



過去前例のない緊急事態に立ち向かうとき

今、できることを

いま私たちが直面する、人類史上前例のない新型コロナウイルスの脅威。世界中で感染が拡大する目に見えない敵は、私たちの生活を一変させました。しかし、収束が見えない事態だからこそ、私たち一人ひとりが考え、行動に移し、あらためて向き合う必要があります。

close-up [COVID-19]

新型コロナウイルスの感染状況（2020.5.5 現在）

世界の感染者数 - 343万 5,894人

新型コロナウイルス感染症

日本の感染者数 - 1万 5,057人

初期症状では、鼻水や咳、発熱、軽い喉の痛み、体のだるさなど風邪のような症状が生じる。特に、37.5℃程度の発熱と強い体のだるさを訴える人が多いという特徴があり、においや味が分からないなど、嗅覚・味覚障害が起きる人もいることが分かっている。重症化すると肺炎が悪化し、場合によっては死に至るケースも。現時点での感染経路は、咳やくしゃみなどを吸い込んで感染する飛沫感染と、感染者が触れたものから感染する接触感染が考えられ、現段階でワクチンは開発されていない。

※特集記事は令和2年5月5日現在の情報

前例のない緊急事態に立ち向かう
世界中で感染が増え続ける新型コロナウイルスの脅威。世界の感染者数は343万人以上。日本でも1万5千人以上が感染し、死者は500人を超えました。事態の収束に向け、国は初の緊急事態宣言を発令。外出の自粛や休業要請、学校の休校、施設閉鎖、イベント中止といった感染拡大防止対策により、私たちの生活は一変しました。特に影響を受けている飲食店は、自粛による売上減に加え、休業要請で営業できない事態に。例年に比べ売上が激減するなど、出口の見えない状況から存続の危機に追い込まれる店舗も少なくありません。さらに今月4日、緊急事態宣言が延長。マスク着用や手洗いに加え、会話の抑制や人との距離、テレワークなど「新たな生活様式」への切り替えを国が提言するなど、長期戦も予想されます。今月11日から再開された町内小中学校でも、机を離して適正な距離を確保するなど徹底した感染予防対策を実施。町でも、刻々と変わる事態に対応し、施設や行事の調整など感染拡大防止と同時に、迅速な経済支援策の整備を進めています。

今、できることを一人ひとりが考え、行動することが求められています。

5月11日から学校を再開

1日の臨時登校日には国からの布マスクと、養護教諭を中心に先生たちが手作りしたマスクが、7日は保護者の1人から児童全員にメッセージ付の手作りマスク78枚が贈られました。（田代小）

「1年生は入学して11日間しか登校できていない。再開が決まって安心したが感染の不安もある。マスクに慣れない児童もいるので声かけも重要。感染予防を徹底しながら授業を進めたい」と、1年生を担当する浪瀬裕子教諭は今の心境を話します。



（5月7日：田代小学校）

緊急事態宣言が出され、4月22日から5月6日まで休校していた町内すべての小中学校が、5月11日から再開されました。連休明けから約2週間、5月24日までは「警戒期間」ととらえ、各学校ごとに手洗いや換気、机を離して距離を確保するなど、徹底した感染予防に取り組んでいます。